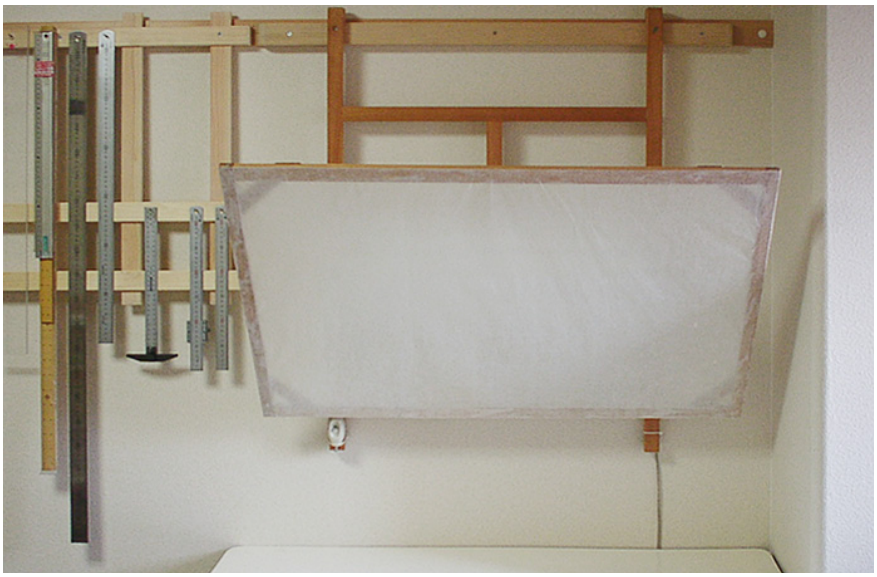
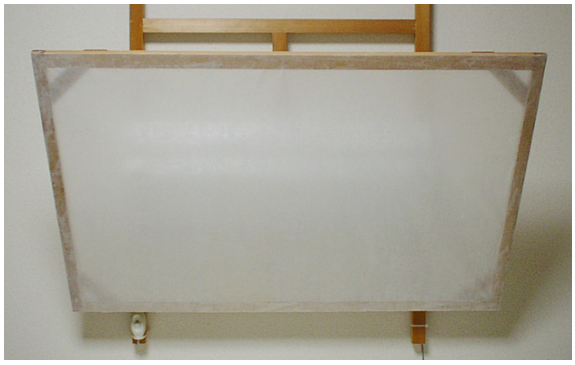
5　遮光枠



写真：
遮光枠

制作をする際、銅版に直接光が当たると反射して版面が見にくい。それで木枠に美濃紙（和紙）を貼り付けて光を散乱させる。遮光枠を使用する時は、壁などに取り付けて作業机から縁を切る。これは作業机が動いても光源が揺れないのと、作業机を広く使える利点がある。尚、光源には蛍光灯を使用している。また、手元に中間スイッチがあると便利である。

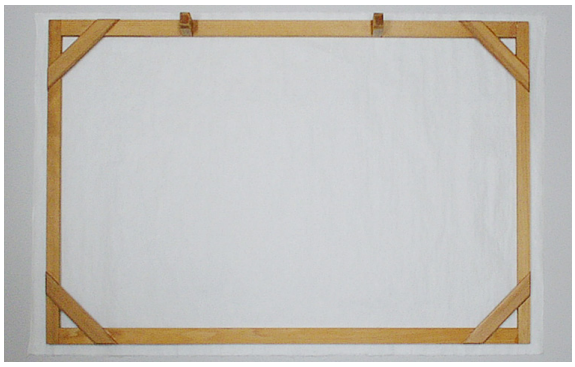
遮光枠を作るには耐水性のある樹脂系のボンドで接着する。しかし、木工用の水性ボンドで接着したときは、表面にニスを塗布しておくとよい。それは、和紙の貼り替え時に水をかけて湿らせる必要があるからだ。和紙を貼って乾燥した後は、噴霧器で湿らせて弛みを取る。尚、遮光枠を作るなら、大きなものがよいだろう。



1. 写真は自作の遮光枠である。枠は任意の位置で止まるようになっている。

2. 枠に和紙を貼っていない状態。

3. 遮光枠の光源台に蛍光灯器具を取り付けた状態。点灯のオン・オフは、中間スイッチで行う。左下に見えるのがそれである。



4. 美濃紙の上に遮光の木枠を置いた状態で、見えているのは裏側である。美濃紙を糊付けし、乾燥後に不要な部分を切り落とす。その後、噴霧器きで湿らせて美濃紙を張る。この木枠はキャンバスの木枠を用いてもよいだろう。

遮光枠の大きさ：600 ミリ× 900 ミリ

美濃紙の大きさ：640 ミリ× 960 ミリ

5. 写真は光源台と遮光枠との接合部分。光源の台座に取り付けた金具の間に遮光枠の接合部分を差し込む。ボルトにワッシャーを嵌めてから、金具と接合部に通す。それからボルトにワッシャーとスプリング・ワッシャーを嵌め、蝶ナットで締め付ける。蝶ナットの締め具合で、遮光枠が任意の位置で固定される。

遮光枠について

ここでの遮光枠は私が使っているものだが、他にも別のやり方があるはずで、各自が工夫をするとよい。例えば、仕事机の近くに窓があるなら、そこに遮光枠を取り付けてもよいだろう。遮光枠に用いる紙は、光源の種類や強さに応じて厚さを変えるとよいだろう。上の説明では美濃和紙を用いたが、身近で見かけるレーヨン紙も適している。そして、このレーヨン紙は全紙の大きさで入手できる。

左の挿図はワトーが彫版師をスケッチしたもので、ここには遮光枠が描かれている。また、仕事場の照明器具にも遮光枠のように、遮光を施すと作業中の銅版などが反射しない。特にドライポイント、ビュラン制作には必要だろう。